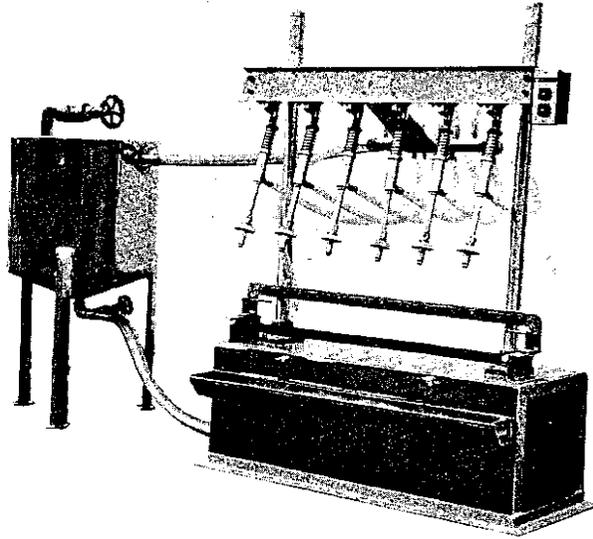
レイメイ粘体瓶詰機

SR－4型・SR－6型

取　扱　説　明　書

株式会社　レイメイ製作所

長崎県諫早市貝津町１８３０番４６

ＴＥＬ０９５７（２５）１３２１

ＦＡＸ０９５７（２５）０３９７

1　本機とタンクの据付

サービスタンクは出来るだけ本機の近くで、低い位置に据え、戻りのホースが水平又は下りになる様にして下さい。戻りのホースが長くなったり、上がりになると、充填時に容器に圧がかかり、調子が悪くなることがあります。

2　ホースの接続

表紙の写真の様に、タンクの底のホース口とポンプの吸入口を、また、タンクの上のホース口と本機の後側のホース口をそれぞれ付属のホースで接続します。接続部分は、ホースバンドで確実に締めつけて下さい。

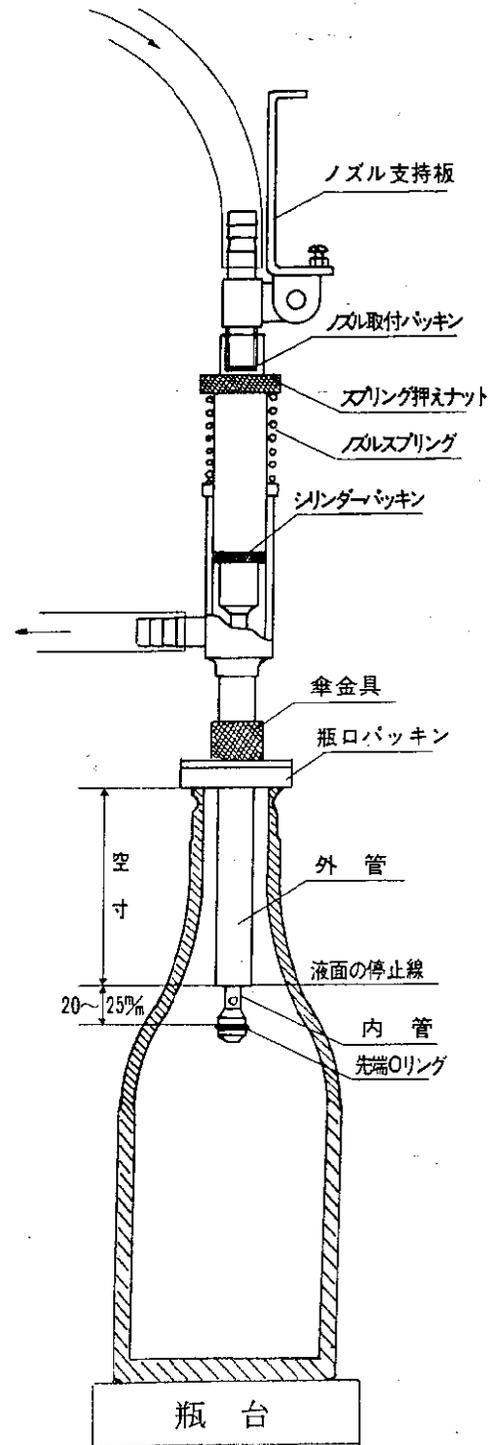
3　充填量の設定

第1図の様に瓶口をノズルの瓶口パッキンへあてた時、外管の先端が液面の停止線となります。即ち、瓶口パッキンの下面から外管の先端までの寸法が空寸いなりますので、瓶口パッキンを適当な位置に移動して空寸を決めます。
瓶口パッキンを移動するには、傘金具を右に回しながら上下に動かすと簡単に移動できます。

4　ノズルの高さの設定

瓶をノズルに差し、外管を押し上げて瓶台に乗せた時、第1図の様に外管が２０～２５mm あがる様な高さにノズル支持板をセットします。外管の押し上げが足りないと液がスムーズに出ないことがありますのでご注意ください。

5　運　　　転

回転方向はプーリーに矢印で表示してあります。スイッチを入れてポンプを回転させても、ポンプの中に液体がないときは液を吸い上げない事があります。この場合は、ポンプの吐出口から少量の液体を呼び水として入れて下さい。
ステンレスは焼付きやすいので、空転はできるだけ避けて下さい。

第１図

6　瓶詰流量の調節

本機の上方後部にあるバルブは、ノズルへ流れる液の量を調節する為のバルブです。このバルブを閉じると、全部の液がノズルへ流れるので流量は多くなり、開くと一部は直接タンクへ戻るので、流量は少なくなります。液体の粘度が比較的高い場合は、バルブを開いて流量を少なくして下さい。流量を多くすると容器にかかる圧力が強くなり定量になっても液面が停止しないことがあります。

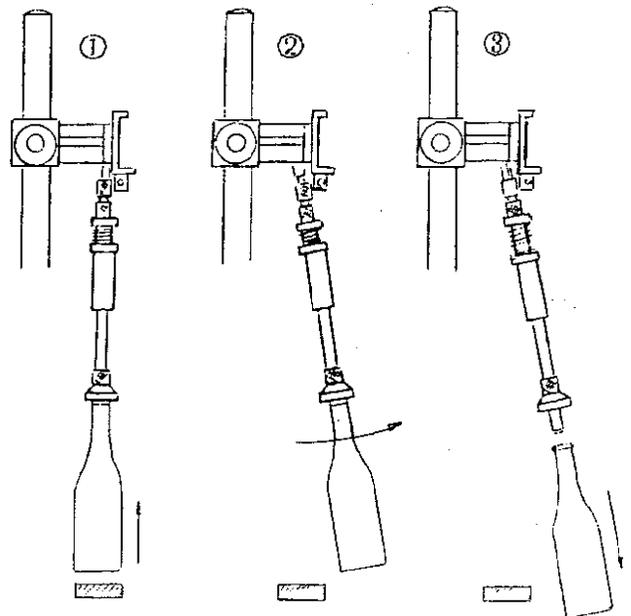
7　瓶　　　　詰

瓶をノズルに差し、瓶口をパッキンにあてて押し上げると、外管が上がり、ノズルの先が開いて液が出はじめますので、そのまま瓶を瓶台に乗せます。この場合、ノズルと瓶の中心線が真直になる様に注意して下さい。
瓶が傾いたりして、瓶の口から空気が漏れると定量になっても液面が停止しません。

8　瓶を抜く時の注意

第２図の要領で抜きます。
①瓶を垂直に持ち上げ、瓶を瓶台から浮かす。
②瓶の口をパッキンに密着させたまま、ノズルの上部を支点にして、振り子の様な状態で瓶の底を瓶台からかわす。
この時、瓶の口とパッキンが少しでもはなれると、液が漏れます。
③瓶を一気に抜きます。

9　ノズルの点検

ノズルの先端のＯリングをはずすと、外管と内管が分離出来ます。
Ｏリングは時々ひび割れなどを点検し、古くなったら交換して下さい。
瓶を抜いた時、外管がスムーズに下がらない時は、シリンダーパッキンが傷んでいる場合が多いので、新しいものと交換して下さい。

第２図

ポンプについて

使用しているポンプは、多少の混入物は支障なく輸送しますが、砂などの堅い異物はポンプを痛めますので、混入しない様、特に注意して下さい。
もし、運転中に異音がした場合は、直ちにスイッチを切り、別冊のポンプの取扱説明書を参考にして、傷を取って下さい。
その他、高温の液体の場合の注意等、ポンプの取扱説明書を御覧下さい。

こ　ん　な　時　は

液が定量になっても止まらない	瓶口パッキンから空気が漏れている パッキンが傷んでいたら新品と取替える。
瓶を抜いた時、外管がスムーズに下りない	シリンダーパッキンが傷んでいる場合が多い。先端のOリングをはずし、外管を抜いて新しいパッキンと取替える。
瓶を抜いた後、液があとだれする	上記の原因で、外管が完全に下りない また、先端のOリングが傷んでいるか、 Oリングの取付がよじれている。
ポンプが異常な音がする	堅い異物を噛み込んだものと思われます 直ちに運転を止め、ポンプの説明書により、点検して下さい。

水で試運転を行う時

水の場合、後部の流量調節用のバルブを閉じていても、全部のノズルに水がまわらない事があります。これは、使用しているポンプが粘性液用の為、水に使用した場合は能力が低下する為です。水がまわっているノズルの入口のホースを、１本～２本手で絞ってやると出ていないノジルにも水がまわり、その後は引き続き出る様になります。
多少でも粘性のある液体の場合は、この様なことは起こりません。